

まちかど農園 POSTo

優しくて、楽しいまちかどで  
新しい事業やアイデアが生まれるかも



阪急逆瀬川駅から徒歩2分。小道を上るとひととき目立つ真っ黄色の壁。その一角だけ、まるでイタリア映画「イル・ポストイーノ」にでてくるナポリの島の街並みのようだ。

1階は宝塚西谷の無農薬野菜の販売所と淡路島バーガーのお店、2、3階はコワーキング&レンタルオフィスになっているこの建物の名前は、「まちかど農園 POSTo」。POSToとはイタリア後で「場所」という意味。農園といっても実際に畑があるわけではなく、多くの人が利用し、育ち育てる農園（会社）になればという考えでつけられた名前だ。

オーナーの株式会社テルッツォ代表取締役社長、西田光彦さんにお話を聞いた。

空き家になっていた実家を、人が集まるスペースに



ここは、西村さんをご両親と叔母、二人のご兄弟と暮らしていた元実家だ。兄弟が独立し、父母と叔母が亡くなった後の約10年間は空き家になっていた。駅に近い好立地から、マンション建設など様々な提案があったが、西田さんが選んだのは、人が集まる場所、コワーキングスペースだった。実家の建物と叔母が営んでいた隣の美容院を合体して、思い出がつまった昔の家の枠組みはあまり変えないようにして改築した。

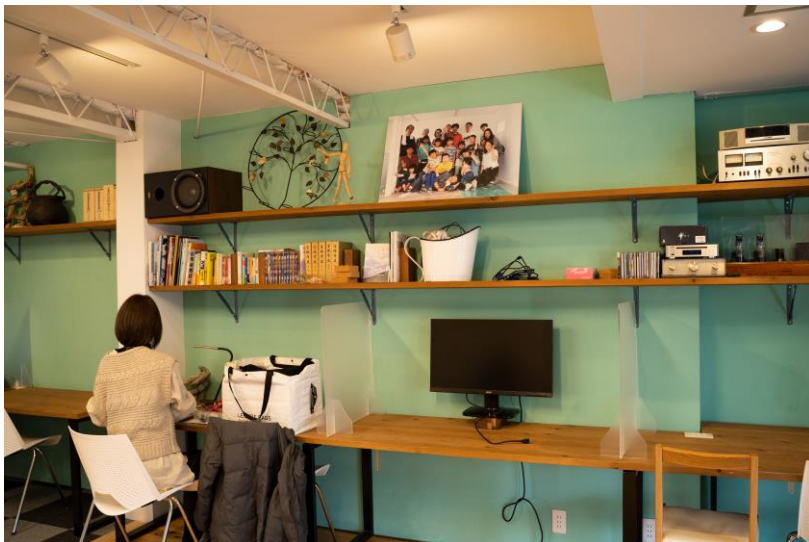


「利用する人たち自身が改築に加わってくれば思いが伝わるのでは、という気持ちで入居希望者に相談したところ、子どもたちに壁を塗ってもらおう、という案が持ち上がり、3歳から高校生まで40人以上のボランティアが集まってくれました。2〜3日はかかるだろうという読みは外れ、全ての壁の塗り作業を何と1日でやってくれたのですよ！」

西田さんは顔をほころばせる。



現在は2階がコワーキングスペースとレンタルオフィス、3階は撮影などに使える貸しスタジオとなっている。どの部屋もアットホームでくつろげる雰囲気だ。



## メインの事業は太陽光発電

西田さんの会社、株式会社テルッツォは、太陽光発電の設定、施工、販売をしており、ソーラーパネルの下で農業を行う「ソーラーシェアリング（営農型太陽発電）」事業も行っている。ソーラーパネルの下でも作物の種類を選べば農業ができるそうで、西田さんも、自身が設置したソーラーシェアリングの市民農園を2区画借りて、サツマイモを作っている。以前は、子どもたちにも畑を楽しんでもらったり、サツマイモを販売してもらったりというイベントを行っていたが、今はコロナ感染対策でストップしているそうだ。

POSTo の施設でも、POSTo Library（ちいさな持ち寄り図書館）の電気は屋根にとりつけられた太陽光パネルでまかなっている。



「自分はSDGsに関わる事業をやっていますが、POSToに人が集まり、アイデアや新しい事業が生まれるといいと思っています」

コワーキングスペースの事業にはそんな期待もある。

## 宝塚市は治安も良く静かなまち。ぜひ来てコワーキングスペースを使ってください

現在の利用者は、仕事をリタイアしてNPOを立ち上げた人やコンサル業の人など多種多様。コロナ禍でリモートワークの人も増えた。

「移住してきて、コワーキングスペースを使ってください。そうすれば、必要なことを何でもお教えします。人も紹介できます」

さすがに西田さんは地元の人。移住者にとって、この辺りで長年生活し事業をしてきた人が味方になってくれるのは心強い。

宝塚市は高齢化の一方で、場所によってはマンション建設などが進み、若い移住者も増えているようだ。

今後このまちをどんなまちにするかは、移住を考えているあなた次第かもしれない。

キャプション

<071220126\_349>

株式会社テルツォ代表取締役社長、西田光彦さん

<073220126\_358>

昔の家の枠組みはあまり変えないようにして改築した

<104220126\_436>

ボランティアが1日で壁を塗ってくれたと語る西田さん

<100220126\_416.jpg>

コロナ感染対策でテーブルの間隔を広めにしているコワーキングスペース

<091220126\_400>

アットホームでくつろげる雰囲気を作っている

<077220126\_373>

POSTo Library は持ち寄りの小さな図書館